

浮田 正夫さん（山口県宇部市出身）  
JICA 草の根技術協力事業  
案件名：ブンカリス県における環境改善協力  
実施団体：山口県宇部市  
派遣国：インドネシア  
2016年11月6日（日）中国新聞 SELECT 掲載



※中国新聞社の許諾を得ています

## 泥炭地の水道水を改善

日本から飛行機を乗り継ぎ、陸路とフェリーを使って行き帰りに4日を費やすインドネシアのブンカリス県。しかしその分、ここには人々の素朴さや敬虔なイスラム精神が残っている。一方、石油資源もあり、比較的豊かな地域だ。スマトラ本島部には熱帯湿地林があり、人が侵入しにくかったため、貴重な自然が残されてきたのだ。

宇部市は同県職員が山口大で博士号を取得した縁で、2012年度から環境基本計画策定を支援し



泥炭の影響で色が付いた原水。薬品を入れて異物を沈殿させた後、ろ過する

た。1年の空白を置いて、本年度からは第2期として泥炭地独特の着色水を原水とする水道水質改善を目的とした、国際協力機構（JICA）草の根技術協力事業を実施。私は山口大工学部で衛生工学を担当した経験から、市水道局の協力を得てそのお手伝いをしている。

この県は近年、製紙パルプ用のアカシアやヤシ油生産のためのアブラヤシのプランテーションによって大規模な開発が進んでいる。生物多様性の問題や、泥炭地森林火災による地球温暖化の問題にも密接に関わる非常に重要な地域である。

今期事業ではまず基本的な水質モニタリング体制の確立、水道公社の浄水技術者ら職員の意識改革、市民の衛生意識向上などが重要な課題だ。将来的にはトリハロメタンを出さない塩素に代わる消毒技術を検討していく可能性もある。

あくせくせず、のんびりした土地柄で、その良さを維持しながら、持続可能な発展のための地域づくりに貢献していきたいと思う。